

ひの若者会議(仮)とは

次世代を担う若者が、自分たちができること、したいことで、ちょっと日野にいいアイデアを具体的なアクションにつなげていくための集まり。参加メンバーで取り組むテーマごとに「部活」をつくり、プロジェクト化に向け、具体的にできることを考えています。

部活の紹介④ 「ユーチュー部」

「ユーチュー部」では、「日野町の人」にスポットをあてて、伝統文化をつなぐための動画を撮影し、アーカイブ配信することで、「日野町の人」が「日野町の人」をよく知っていることをめざし、活動を進めていきます。

このほか、ほかの部活の活動も情報発信するなかで、「日野の若者」にもスポットを当てていきます。

部活の紹介⑤ 「音楽マーチ部」

「音楽マーチ部」では、「子どもが楽しめること」をすることで、親や地域の人も元気になれるよう、具体的にできることを考え、アクションにつなげていきます。

vol. 5

メンバーでロゴを作成しました
 皆さんに親近感を持ってもらい、若者の輪に多くの人を呼び込みたいという思いがこもっています。

まずは、就学前の子どもに“音楽”や“楽器”にふれあう機会をつくるとともに、活動を継続して続けていけるような体制づくりを進めるべく、企画調整を進めています。

部活の紹介⑥ 「サウナ部」

「サウナ部」では、サウナを手段のひとつとして、“コミュニティの場づくり”を進めるとともに、活動を町内のさまざまな場所で行い、日野町で楽しめるよう活動を進めていきます。

まずは、メンバーを集め、取り組みを進めていくための“サウナミーティング”を開催すべく、企画調整を進めています。



◆問い合わせ先 企画振興課 企画人権担当 ☎ 0748-52-6552

地域おこし協力隊 活動記

町では、3名の地域おこし協力隊に着任いただき「関係人口の創出と拡大」移住・定住の促進に取り組みしています。
 今月号では吉海星来さんの活動を紹介します。



日野高校の生徒の皆さんが地域課題をテーマに体験しながら学ぶ授業「ひのチャレ」で、10月・11月に空き家講座の担当をさせていただきました。



授業では、空き家の課題を学んだあと、空き家の活用アイデアを考え、最終日には課外実習としてDIY体験を実施しました。実習当日はシャッターペンキ塗り、柿渋塗り、トイレの内装、草刈りなどといった作業を、グループに分かれて取り組んでいただきました。ペンキと柿渋の匂いが想像以上にきつく「ぎゃー臭い」とはしゃぎながらも真剣にお手伝いしてくれました。いろんな意味で思い出に残る日になったのではないかと思います。これからも町民の皆さんと、このような機会を作っていければと思います。
 12月11日(日)は、まちのコイン「スタンプリイイベント」を開催しました。大津市や近江八幡市など町外からも参加いただき、延べ32名の方に楽しんでいただきました。当日私は「じゃん福亭」さん(松尾)の「用心下駄ストラップの制作体験」のお手伝いをしました。

まちのコインのイベントに参加される方は交流を求めて来られるので、あたたかい人が多く、素敵な時間を過ごすことができます。

今年も引き続き、まちのコインやDIYイベント、日野と若者をつなぐような機会を企画していきますので楽しみにしててください。

◆問い合わせ先 企画振興課 企画人権担当 ☎ 0748-52-6552



まちのコイン
 インストール

温故知新

日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

大字木津

大字木津は日野地区の南西に位置し、字域の中央をはしる日野川の北側に集落が形成されています。「木津」という地名は全国各地で見られ、一般的に木材の集積地としての役割を担っていた地のことを指しています。

日野町の木津も、綿向山一帯より伐り出した木材を、日野川の水運を用いて運び出した際に、当地で陸揚げしていたことにちなむとされています。

現在の日野川の流路は、付け替えが行われたとされており、かつては、字域の北東を流れていたと考えられています。

大字木津の北東端にあたる地域は「這上り」と呼ばれ、日野川旧河道から大窪、河原田へと上がる急坂の道の通称として広く知られています。

地名から、土地の歴史や特徴をうかがい知ることができます。

古代からの開発

ここでは複数の遺跡が発見されており、現在の集落が形成される前の木津を知る手がかりとなっています。

森西城遺跡は大字木津の字森西から大字日田の一部にまで広がる弥生時代から鎌倉時代にかけての集落遺跡で、3棟の堀立柱建物をはじめ、数多くの遺構と遺物が発見されています。出土した弥生時代中期の弥生土器は、複数の模様や穿孔などの装飾が施されていることから、供献用の特殊な土器であったと考えられています。

これらの遺構や遺物により、明確な弥生時代の遺跡として日野川流域にあたる本遺跡は、この地が早くから開発されていたことの証となっています。

また、浄土真宗本願寺派の即往寺に伝わる方便法身尊像裏書には永正17(1520)年の年紀と「日野牧木津」という地名が見えます。この頃には現在

の集落が成立していたと考えられ、木津が古くより要衝の地として重要視され、開発が行われてきたことがわかります。



【即往寺】

木津区石造宝篋印塔

即往寺の向かいにある薬師堂と地藏堂の左手前側の基壇上には、高さ167.1センチメートルの宝篋印塔

が建っています。陰刻された銘文から康暦元(1379)年に造立されたことがわかっています。

材石には米石と呼ばれる細粒黒雲母花崗岩で造られています。この米石は、鎌倉時代後期から室町時代初期にかけて、宝塔や宝篋印塔などの石造品に用いられており、硬質で風化しにくく、また繊細な細工もしやすい良質な石材です。この米石は、日野町の蔵王で産出され、中世に数多くの石造品の材石となっていますが、近世ではほとんど使用されなくなりました。

大きな欠損もなく、ほぼ完全な姿をとどめる本塔は、昭和37(1962)年10月1日に町指定文化財となり、石大工の豊かな細工技術の特色を今に伝えています。



【木津区石造宝篋印塔】

◆問い合わせ先 近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」 ☎0748-52-0008